

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（6月29日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄
^{み としよかん}美図書館です。

今朝は，^{あまみとしよかん}奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書の紹介です。

^{かやま}香山リカさんの『「だまし」に負けない心理学』は，不安を^{かか}抱える私たちへの^{しよほうせん}処方箋ともいえる一冊です。人はいったん不安にとらわれてしまうと，そのあまりの支配力や影響力の大きさに，冷静な判断すらできなくなることがあります。そんな時，正しい情報や科学的な答えではなく，まず不安を取り除いてくれそうな人に，救いの言葉を求めてしまうことはありませんか。なぜ，人はだまされるのでしょうか。だまされないためには，どうしたらよいのでしょうか。精神科医の^{かやま}香山さんが，医者立場から，「だまし」に負けない方法を教えてください。

味わい深い^{ずいひつ}随筆を紹介しましょう。『^{ゆず くねん}柚子は九年で』は，直木賞作家の^{はむろりん}葉室麟さんの初めての随筆集となります。「・・・歴史の敗者を描きたい。彼らの存在に意味はなかったのか・・・」という思いから，ひたむきに生きる人々の姿を描き続ける葉室さん。50歳から創作活動に入った葉室さんの作品に託す思いや，敬愛する作家，小説のモデルとなった人々など，葉室作品をより^{みぢか}身近に感じることできる随筆集です。また，博多を舞台にした短編小説『^{なつしばい}夏芝居』も収められています。ぜひ，お読みください。

次に，新着の児童書を2冊紹介しましょう。

『月の少年』は，『^{しんやとつきゆう}深夜特急』などで有名なノンフィクション作家・^{さわきこうたろう}沢木耕太郎さんの初めての児童書です。両親を海の事故で亡くした少年が，湖のほとりで暮らすおじいさんの家に引っ越してきました。ある満月の夜，少年は不思議な少年に出会います。その出会いが，少年を絶望の淵から少しずつ救ってくれたのでした。幻想的で美しい挿絵も，物語を引き立てています。小学校高学年から大人まで，じっくり読める内容です。

誰もが一度は読んだことがあるグリム童話。その中から『こびととくつや』を紹介します。むかしむかし，あるところに，貧しい靴屋の夫婦が住んでいました。働いても働いても貧しくなるばかり。靴を作る皮もどんどんなくなっていき，とうとう一足分の靴の皮を

残すだけとなりました。靴の型を切り取り，靴屋は寝ることにしました。次の日の朝のことです。切り取っただけの皮が，立派な靴に仕上がっているではありませんか。一体，誰が仕上げたのでしょうか。色あせることのないグリム童話を，ご家族でお楽しみください。

最後にお隣の沖縄について書かれた本，『沖縄オバー食堂』を紹介します。

沖縄には，おばあちゃんたちが経営する“オバー食堂”が数多くあります。そこには，おいしい郷土料理と，懐かしい時間と，オバーたちの楽しいおしゃべりがあります。ゴーヤチャンプルや沖縄ソバやポーク玉子などを食べながら，ゆっくり時間が流れていきます。しかし，“オバー食堂”は高齢化が進み，これから先の経営が危ぶまれています。沖縄グルメ遺産として，なんとか残していきたいという動きもあるそうです。写真家の円山正史さんの長閑な写真で紹介される食堂の数々に，なぜか癒されていくようで不思議です。沖縄と同じ食文化をもつ奄美。奄美の食文化を考えるうえでも，興味深い一冊です。

暑さが本格的になってきました。体調管理にお気を付けください。

かごしまけんりつあまみとしよかん
鹿児島県立奄美図書館でした。